

別記  
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和8年2月20日

コミュニティ名 与謝野若手コミュニティ2025  
代表者所属名 与謝野町立山田小学校  
代表者職・氏名 教諭 坂根 日那子

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

与謝野若手コミュニティ2025

2 研究テーマ

「みんなで分かる授業」の創造

3 研究の目的

○令和の日本型学校教育の推進  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実  
・子ども達の笑顔あふれる教室へ（「できた・分かった」）  
・子ども主体の授業づくり

4 研究の成果と課題

【成果】  
・児童の実態をもとにした課題を設定し、授業改善の一步を踏み出すことができた。「チャレンジ&リトライ」の意識をもって、成果だけでなく失敗から

も学びがあった。

- ・数回の会議・研修となったが、他校の先生方と共通の目的で授業実践に取り組めたことに大きな成果を感じている。
- ・児童生徒を真ん中にした授業づくりの必要性を共通認識でき、実際の授業に挑戦することができた。
- ・教職員同士のつながりができた。

【課題】

- ・授業改善の必要性を強く感じながらも、実践を広げることに難しさも感じられた。(小学校専科教員 [算数])
- ・授業改善を各校で実践することはできたが、まだ一歩踏み出しただけという現状である。各校での実践を広げ中学校区全体での授業改善に繋げたい。

## 5 研究成果の波及方法

- ・実践を交流したり、自己の実践を振り返ったりしながらチャレンジし続け、各校で実践を波及していく。
- ・他校の教員とつながり、Teams等を活用した非同期型の実践交流を広げていく。

## 6 研究（活動）実績\*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
令和7年7月 15日	○第1回コミュニティ会議 ・事業内容の確認 ・活動計画の確認	与謝野町立山田小学校
令和7年12 月10日	○第2回コミュニティ会議（研修会） ・公開授業 ・事後研究会兼研修会 講師 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇様	与謝野町立山田小学校
令和8年1月 9日	○第3回コミュニティ会議 ・書籍からの学び交流 ・2学期の実践と第2回コミュニティ会議の振り返り ・3学期の実践計画	与謝野町立山田小学校

## 7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	子ども主体の授業づくり
育てたい資質能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら目標（課題）を設定し、学習方法を選択し自己調整しながら学ぶ力（自ら考えて行動できる）</li> <li>・「チャレンジ&amp;リトライ」を繰り返しながら粘り強く学習に取り組む力</li> <li>・他の児童とつながり、より深く考え、自身の学びを広げたり深めたりしようとする力</li> </ul>
実践又は研究の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いに意見や考えを聞き、自分の思いを大切にしたい自己決定ができ、それを認め合える居心地の良い学級づくり</li> <li>○子どもが学び合う環境設定を含めた授業づくり</li> <li>○自己決定を大切にしたい授業 →主体性の向上</li> <li>○自分の力を「みんなで分かった」に広げられる関係づくりや環境づくり</li> <li>○学び方の自由度を広げ、課題にチャレンジ</li> <li>○「振り返り」を継続・充実させ、「みんなで分かる授業」の創造</li> <li>○認知能力と非認知能力を一体的に育む教育活動の推進</li> </ul>